

## ま え が き

学力と学習指導の問題は学校教育の中心的な課題である。児童生徒の学力向上ということは、いつの時代でも変わらぬ社会的要請であり、父母の願いでもあろう。青少年の学力を向上し、人材を開発するということは、科学技術の飛躍的に進歩する現代において、各国とも競って力を入れているところであり、それは一つの世界的な動向ともみられる。わが国においても、たびかさなる教育課程・学習指導要領の改訂を経て、学力向上への努力は、行政面でも実践面でも、たゆみなく真剣に続けられている。ところが、本県の実情をみると、関係者の努力にもかかわらず、毎年行なわれる学力調査でも全国水準を下まわっており、これが向上をはかり、児童生徒一人一人の学力をじゅうぶん伸ばし育てることは、本県教育における現下の重大課題である。

当研究所では昭和34年以来、学力向上のための学習指導の改善をテーマとして、全所員の共同研究体制のもとに共同思考をかさねながら、主として小・中学校の全教科にわたって実証的な研究を進めてきた。また、36年度からは、全国教育研究所連盟でも、国語・社会・算数数学・理科の学力と学習指導についての全国的な共同研究を行なうようになったので、当研究所も積極的にこの4教科の共同研究に参加し、その推進に寄与している。

ところで、児童生徒の理解力とか、思考力というものは、どのようにして伸び、その学力はどのようにして形成されていくものであろうか。また、日に日に科学技術の躍進する現代に生きぬいていく青少年に、どのような学力を、どのようにして育てていくことが望ましいのであろうか。これは実に重大かつ困難な研究問題である。われわれは総力をあげて、一步でも二歩でもこの問題解決にせまる実証的な研究を進めたいと念願し、単に指導技術上の問題や速効的な学力向上法ではなく、真に生きて働く学力を形成していく基本的な学習指導法を確立したいと思う。

この紀要は、昨年度の研究紀要「児童生徒の歴史理解とその指導〔1〕」に引き続き、授業分析の観点と方法に関する理論的研究をまとめたものである。おおかたのご批判をいただければ幸いである。

なお、この研究は、それぞれ研究協力学校の絶大な協力のもとに行なったもので、学校長はじめ、直接間接に協力していただいた職員各位、ならびに児童生徒諸子に対しても心から深く感謝の意を表するしだいである。

昭和38年3月28日

新潟県立教育研究所長 小林 正直